

# コーポレート・ヘルスチェック

## 日本のビジネスにおけるアースポジティブな活動状況

CDPコーポレート・ヘルスチェックは、情報開示、目標設定、ガバナンス、戦略、インパクト削減の進捗状況という5つの重要な気候と自然に関する領域における、ビジネスの進捗状況を評価しています。また、本調査における分析の結果、役員報酬、カーボンプライシング設定、気候移行計画、サプライヤーエンゲージメントは、企業がデータを活用して最大の進化を遂げるためのビジネスにおける4つの主要な取り組みであると特定されました。

# 41%



気候目標の達成に向けて  
順調に進んでいる企業の  
割合

# 10%

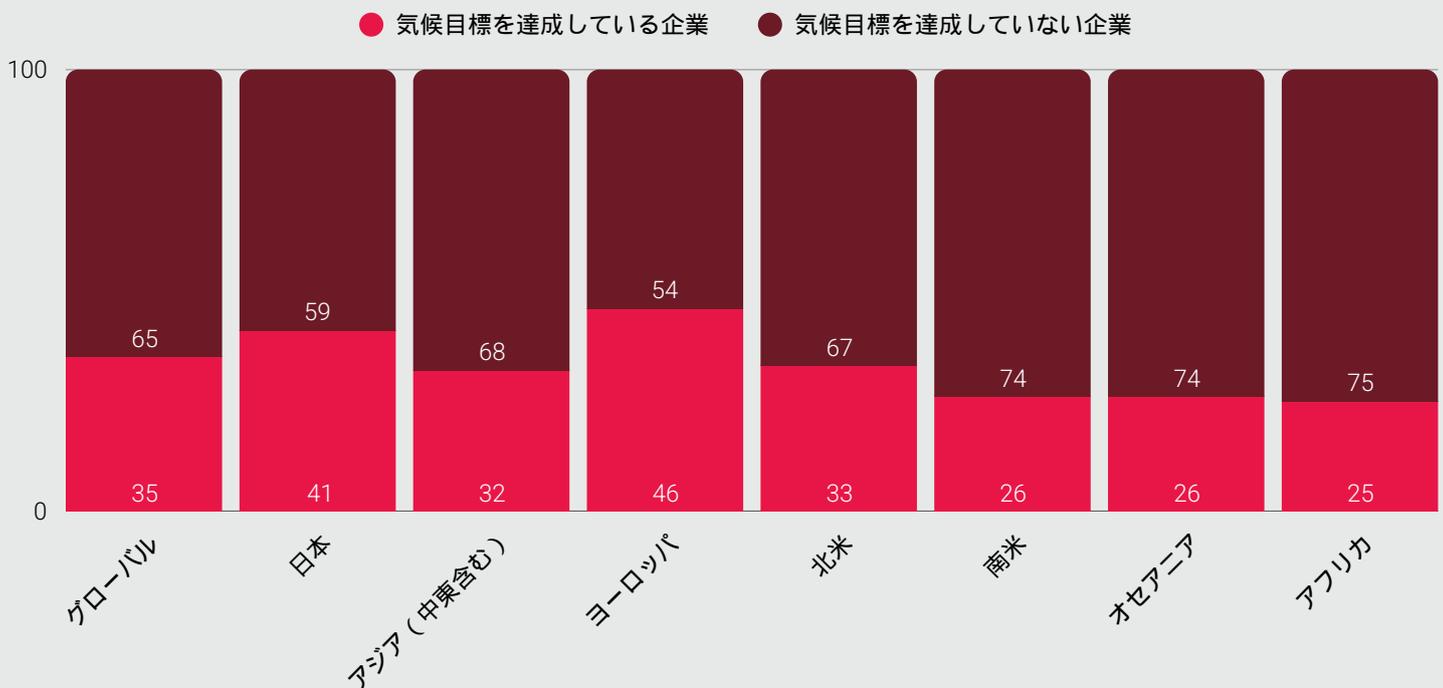


気候目標を順調に進めて  
いる日本企業の時価総額  
成長率は遅れをとっている  
企業の成長率と同程度

### 主な調査結果：日本

- 評価対象の日本企業のうち41%（530社）が気候目標の達成に向けて順調に進んでおり、この結果は国レベルで世界最高値です。
- 気候目標の達成に向けて順調に進んでいる日本企業のうち約70%が、役員報酬を連動させており、リーダーシップが強力な説明責任を持っていることを示唆しています。
- 気候目標に向けて進捗を見せている企業の時価総額の成長率は約10%で、これは目標達成に向けて遅れをとっている企業の成長率と同程度であり、気候と自然への取り組みとビジネス活動の両立が可能であることを示しています。
- 情報を開示した日本企業のうち、バリューチェーン全体の気候目標を設定しているのは26%のみ、気候および自然の両領域で目標を設定しているのはわずか11%で、包括的で野心的な目標設定において大きな乖離があることが明らかになりました。
- 評価対象となった日本企業の11%がすべての環境指標で成果を上げているが、これは世界平均の10%と同水準であり、アースポジティブな意思決定をビジネスモデルに完全に組み込むという課題を浮き彫りにしています。

### 評価対象企業の気候目標達成割合

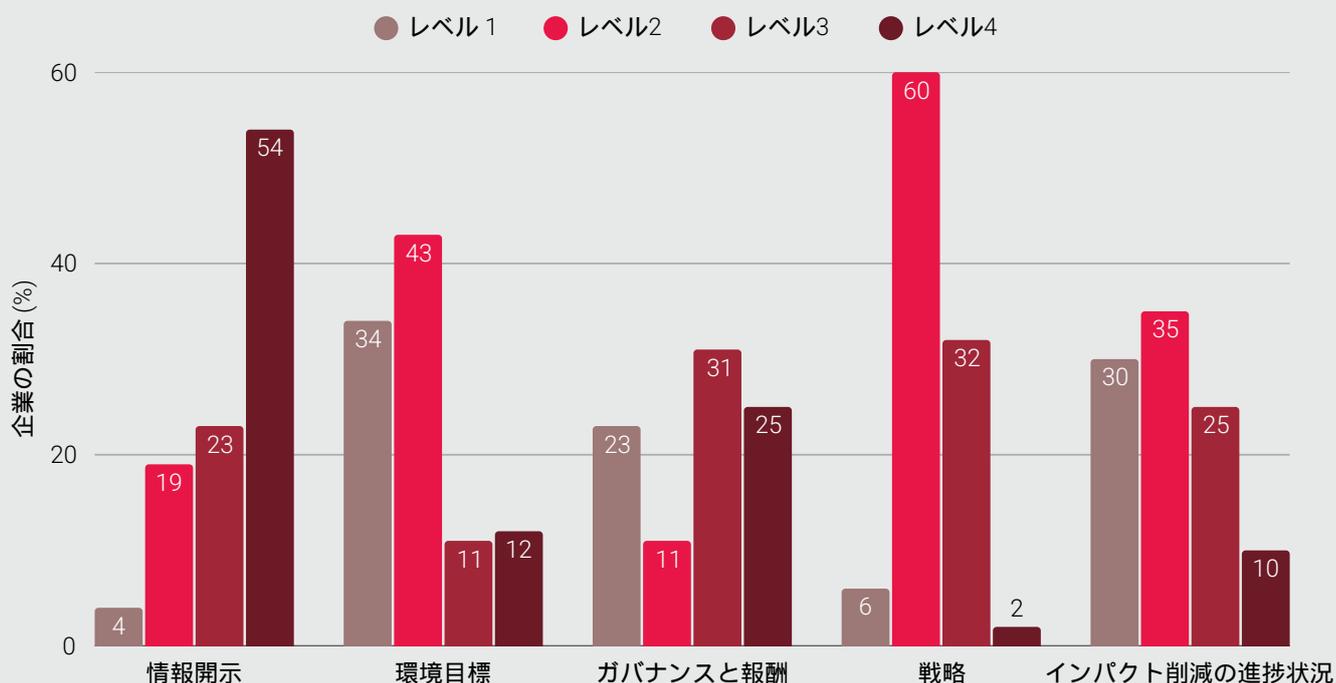


CDPコーポレート・ヘルスチェックでは、企業を総合的に評価し、次の4つのレベルのいずれかに割り当てています。

- レベル1：遅れをとっている
- レベル2：最低限の基準を満たしている
- レベル3：意欲を示している
- レベル4：変革を計画している

5つの重要な気候と自然に関する領域（情報開示、目標設定、ガバナンス、戦略、インパクト削減の進捗状況）におけるビジネスの進捗状況を評価した結果、グローバルで、10社に1社がレベル3以上を達成していますが、最高レベルであるレベル4の企業は1%未満でした。

## コーポレート・ヘルスチェック概要：日本



## CDPコーポレート・ヘルスチェックについて

CDPコーポレート・ヘルスチェックは、世界の時価総額の67%に相当する企業を対象に、気候と自然に関する透明性、目標、ガバナンス、戦略、インパクト削減の進捗状況を評価しています。

CDPコーポレート・ヘルスチェックの指標は、世界経済フォーラム(WEF)が発行する「State of Nature and Climate - 自然と気候の状態」の一部として、オリバー・ワイマンとの協働により開発されました。

CDPコーポレート・ヘルスチェックの詳細について、およびフルレポートをお読みいただくには、以下のQRコードをスキャンまたはクリックしてください。

